

In vivo 薬物動態試験 (共通事項)

GLP準拠施設にて、開発段階に適したin vivo試験を実施いたします。

I

様々な動物種の取扱いが可能

- ◆ 小動物：マウス、ラット、モルモット等
- ◆ 中大動物：ウサギ、イヌ、サル等
 - 病態モデル動物(感染動物を除く)、遺伝子組み換え動物等の取扱いも可能です。

その他の取扱い可能な動物種につきましては
ご相談ください

希少な実験技術の継承・新しい技術の開発に尽力しています。
委託者様からの技術移管も実施しております。

- ◆ 投与手技
 - 硝子体内投与(ラット・マウス・ウサギ)
 - 投与前の胃内pHの調整(イヌ)
 - 中耳腔内投与(モルモット)
 - 肝動脈内投与(ラット)
- ◆ 採取手技
 - 胆管・腸管等のカニューレ技術(マウス・ラット・イヌ)
 - ※ダブルカニューレの実績有り(ラット)
 - 房水の経時採取(ウサギ)

II

RI および 非RI での試験を実施

- ◆ 各核種(^{14}C , ^3H , ^{125}I , ^{32}P , ^{51}Cr 等)を用いた RI トレーサー実験, LC-MS/MS 等の分析機器を用いた試験を実施いたします。

III

開発段階に適したサービスを実施

- ◆ 創薬段階
 - ^3H を用いた早期動態試験等を実施いたします。
 - 手続きの簡略化や電子媒体でのデータ提出など、スピードを重視した対応をいたします。
 - PKスクリーニング試験のご依頼も承ります。
- ◆ 開発段階(信頼性基準)
 - 第1回目(1998年)のGLP適合性調査以降、全調査においてAまたは適合の評価を得ているGLP準拠施設で実施し、申請用データを提出いたします。

IV

英文の試験計画書・報告書を作成

- ◆ ご要望に応じて、英文および和文での試験計画書・報告書の作成をいたします。
- ◆ 和文書類の英訳および英文校正、ネイティブチェックのご依頼も承ります。